

芸 術

1年	音楽Ⅰ
1年	美術Ⅰ
1年	書道Ⅰ
2年	音楽Ⅱ
2年	美術Ⅱ
2年	書道Ⅱ
3年	音楽理論
3年	表現探究
3年	硬筆レッスン

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		芸術	音楽 I	必修選択	2単位	大森久美子
教科書	教育芸術社「MOUSA1」		副教材	iPadへのデータ配信		
授業のねらい	英語の歌の曲想、発音を理解した上で歌えるようになる。楽器(ギター、キーボード)のコードを習得し演奏が出来るようになる。ミュージカル作品や日本の歌について知り、歌詞の内容や文化背景を英語で説明することで、言語技術の能力をつける。					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱と器楽では多くの実技課題が提示されます。意欲的・主体的に取り組みましょう。 ・器楽では学校の備品の楽器を使用します。大切に扱いましょう。 					
評価方法	授業内での実技テスト(「歌唱」「器楽」)、筆記テスト、提出物、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	歌唱:校歌指導、Pops、日本の歌		<ul style="list-style-type: none"> ・校歌指導を通して愛校心を育てる。校歌を英語で歌えるようにする。 ・歌詞の内容を理解し、発音に注意して英語で歌えるようにする。 ・日本の伝統的な歌を知り、歌えるようにする。 ・簡単に歌詞の内容や曲の世界観を英語で説明できるようにする。 		
		器楽:ギター		<ul style="list-style-type: none"> ・タブ譜、コードの知識を習得し、簡単な演奏ができるようにする。 ・ギターで英語の歌が弾き語りできるようにする。 		
2 学 期	中間	歌唱:ミュージカル劇中の歌		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を理解しながらミュージカル作品内の歌を歌えるようにする。 		
	期末	鑑賞:ミュージカル「Sound Of Music」 ミュージカルの歴史		<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルにおいて音楽と演劇、舞踏、舞台美術など他の芸術との結びつきを理解した上で、英語音声で鑑賞する。 		
3 学 期	学年末	創作:ミュージカル(英語寸劇)		<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカル作品より英語で寸劇を行い、表現をつけて発表する。 		
		創作:リズム		<ul style="list-style-type: none"> ・CUPS、ボディパーカッションでリズム感、協調性を育てる。 		
		授業内テスト				
		歌唱:外国の民謡、Pops		<ul style="list-style-type: none"> ・伸び伸びとした良い発声で歌詞の内容を理解し、発音に注意して英語で歌えるようにする。 		
		器楽:コードネームについて		<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードを使用してコードネームの理解 ・英語の曲で発音に注意し簡単な曲を弾き語りすることが出来たか 		
		授業内テスト				

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		芸術	音楽 I	必修選択	2単位	大森久美子、尾又好美 鈴木敬子
教科書	教育芸術社「MOUSA1」		副教材	iPadへのデータ配信		
授業のねらい	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、独創的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が好きな生徒、音大・保育関係へ進学希望者は特に履修を勧めます。 ・歌唱と器楽では多くの実技課題が提示されます。意欲的・主体的に取り組ましましょう。 ・器楽では学校の備品の楽器を使用します。大切に扱いましょう。 					
評価方法	授業内での実技テスト(「歌唱」「器楽」)、筆記テスト、提出物、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	歌唱:発声 齊唱曲、外国語曲、合唱曲	校歌指導	・斉唱曲をのびのびと歌わせ発声法を習得、読譜力の向上	・豊かな発声、外国語曲の発音や特徴を理解する	・校歌指導を通して愛校心を育てる
		器楽:三線	授業内テスト	・沖縄伝統楽器三線の習得度、日本音楽を理解し愛着を深める	・和楽器についての仕組みや歴史、奏法、楽曲の理解	・作曲家、作品への理解度
2 学 期	中間	歌唱:齊唱曲	鑑賞:オーケストラについて 劇音楽について	・のびのびとした豊かな発声、正確なリズムと音程で歌う事が出来たか	・管弦打楽器の仕組みや奏法を理解し、オーケストラの背景を学ぶ	・ミュージカルとオペラ、様々な劇音楽との違いや背景を理解する
	期末	歌唱:齊唱曲	創作:リズム	・のびのびとした豊かな発声、正確なリズムと音程で歌う	・CUPS、ボディパーカッションでリズム感、協調性を育てる	・作曲家、作品への理解度
3 学 期	学年末	歌唱:外国語曲	器楽:ギター 鑑賞:クラシック作品	・歌詞の心情や時代背景を把握し表現することが出来たか	・タブ譜、コードの知識を習得し、簡単な演奏が出来たか	・作曲家の生涯、作品の背景等、クラシック作品を通して豊かな感性を育てる。
		授業内テスト		・作曲家、作品への理解度		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		芸術	美術 I	選択必修	2単位	海老根捺稀
教科書	日本文教出版「高校生の美術1」		副教材等	iPadへのデータ配信		
授業のねらい	鑑賞の授業を通して技術や構想方法を学び、自分のフィルターを通して表現する力を身につける。作品を完成させ他者に講評してもらうことで、さらに作品について考えを深めると同時に喜びや達成感を体験する。					
学習上の留意点	自然物を主な対象として、人間が安易に創造できない自然の持つバランスや生命力を感じ、いかに表現するかを模索する。モチーフの観察、参考作品の分析を繰り返し、総合的な観察力を身につける。					
評価方法	実習制作した作品、プリントなどの提出物。授業への取り組みで評価をつける。 (年間を通して作品の完成度では、構成力、工夫、表現力も評価する。)					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	美術とは何か(鑑賞)	・美術の学びの意味や広がりについて考える			
		身近なものを描く(表現・鑑賞・絵画)	・身近なものの特徴や美しさを、線の強弱で表現する			
2 学 期	中間	視点と表し方(鑑賞・絵画)	・作者の視点に着目し、作品の意図や工夫を鑑賞する			
		人物を描く(表現・絵画)	・自己の内面を見つめ、構図や表情の効果を考え制作する			
		デザインの広がり(鑑賞・デザイン)	・デザインをするときに大切なことは何かを考える			
		ポスターで伝える(デザイン)	・環境問題に対する注意喚起のポスターを構想する			
		風景画水彩模写(絵画)	・模写を通して、構図や道具の扱いを学ぶ			
		日本美術を味わう(鑑賞)	・日本美術のよさや美しさ、表現の特質を学ぶ			
3 学 期	期末	風景画を描く(絵画)	・視点や構図などの効果を考え、風景から感じ取ったよさや美しさを絵具などの特性を生かして表現する			
		暮らしの中の使うデザイン(表現・鑑賞・デザイン)	・暮らしの中にある物を、使う人や場面、デザインの目的や条件を考え、製品を構想し直し、デザインについて理解する			
3 学 期	学年末	映像に包まれて(映像表現)	・人を包み込む映像表現のよさや美しさなどを理解する			
		版画(絵画)	・版画の表現のよさや特性を理解し、効果を生かして制作する			
		切り絵アニメーション(映像)	・テーマを基に、表現効果や伝達効果を工夫して、アニメーションを制作する			
3 学 期	学年末	これからの美術(鑑賞)	・美術を通して学んだことをこれからの生活の中でどのように生かすことができるかを考え、1年間の学びとともに振り返る			

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		芸術	美術 I	選択必修	2単位	海老根捺稀、 菅原英雄
教科書	日本文教出版「高校生の美術1」		副教材等	iPadへのデータ配信		
授業のねらい	鑑賞の授業を通して技術や構想方法を学び、自分のフィルターを通して表現する力を身につける。作品を完成させ他者に講評してもらうことで、さらに作品について考えを深めると同時に喜びや達成感を体験する。					
学習上の留意点	自然物を主な対象として、人間が安易に創造できない自然の持つバランスや生命力を感じ、いかに表現するかを模索する。モチーフの観察、参考作品の分析を繰り返し、総合的な観察力を身につける。					
評価方法	実習制作した作品、プリントなどの提出物。授業への取り組みで評価をつける。 (年間を通して作品の完成度では、構成力、工夫、表現力も評価する。)					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	美術とは何か(鑑賞)	身近なものを描く(表現・鑑賞・絵画)	・美術の学びの意味や広がりについて考える		
		視点と表し方(鑑賞・絵画)		・身近なものの特徴や美しさを、線の強弱で表現する		
2 学 期	中間	人物を描く(表現・絵画)	デザインの広がり(鑑賞・デザイン)	・作者の視点に着目し、作品の意図や工夫を鑑賞する		
		ポスターで伝える(デザイン)		・自己の内面を見つめ、構図や表情の効果を考え制作する		
		風景画水彩模写(絵画)		・デザインをするときに大切なことは何かを考える		
		日本美術を味わう(鑑賞)		・環境問題に対する注意喚起のポスターを構想する		
3 学 期	期末	風景画を描く(絵画)	映像に包まれて(映像表現)	・模写を通して、構図や道具の扱いを学ぶ		
		暮らしの中の使うデザイン(表現・鑑賞・デザイン)		・日本美術のよさや美しさ、表現の特質を学ぶ		
3 学 期	学年末	版画(絵画)	切り絵アニメーション(映像)	・視点や構図などの効果を考え、風景から感じ取ったよさや美しさを絵具などの特性を生かして表現する		
		これからの美術(鑑賞)		・暮らしの中にある物を、使う人や場面、デザインの目的や条件を考え、製品を構想し直し、デザインについて理解する		
3 学 期	学年末	版画(絵画)	切り絵アニメーション(映像)	・人を包み込む映像表現のよさや美しさなどを理解する		
		これからの美術(鑑賞)		・版画の表現のよさや特性を理解し、効果を生かして制作する		
3 学 期	学年末	版画(絵画)	切り絵アニメーション(映像)	・テーマを基に、表現効果や伝達効果を工夫して、アニメーションを制作する		
		これからの美術(鑑賞)		・美術を通して学んだことをこれからの生活の中でどのように生かすことができるかを考え、1年間の学びとともに振り返る		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス 1年生 進学コースAクラス		芸術	書道 I	選択必修	2単位	久次宏太郎
教科書	光村図書「書 I」		副教材等	特になし		
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・書写から書道への変化に対応し、様々な書体の学習を通して表現の多様性を習得する。 ・中国六朝期から東晋、日本の古典や古筆についての知識と技能を習得する。 ・様々な書のジャンルに触れることで、感性を磨き芸術的な視点を身に付ける。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・古典、古筆の背景知識を理解し、書道史の大きな流れを知るための努力をする。 ・毎時間の課題に熱心に取り組み、技術向上の意識を常に持ち続ける。 ・書道室の使い方を理解し、公共の場としての利用を心掛ける。 					
評価方法	毎時間の課題(作品・ワークシート)、授業内テスト結果、授業態度を総合的に判断し評価する。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	書写から書道へ 楷書法を学ぶ 「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 倣書(楷書) 「龍門二十品」		<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の多様さを理解する。(書道史概観を含む。) ・臨書方法を学び、実践する。 ・初唐の三大家の書風を理解し、書法を習得する。 ・三大家の比較を通して、古典の見方を学ぶとともに自らの好みを明確にしていく。 ・顔真卿の独特な書風と書道史上の位置づけを学ぶ。 ・楷書名品の特徴を捉え、創作活動への足掛かりを得る。 ・北魏時代の特徴的な筆法を学ぶ。 		
		2 学 期	中間	行書法を学ぶ 「蘭亭序」 「風信帖」「争坐位文稿」		<ul style="list-style-type: none"> ・王羲之の古典から行書の基本を学ぶ。 ・王羲之の人物像を把握する。 ・多様な行書古典を学び、比較する。
期末	仮名書法を学ぶ 「いろは歌」 「蓬萊切」「高野切 第三種」 成田山全国競書大会作品制作		<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の誕生に遡り、その書道史を理解する。 ・古筆の臨書方法を学ぶ。 ・小筆の筆遣いを学ぶ。 ・成田山全国競書大会に向けて作品制作に取り組む。 			
3 学 期	学年末	漢字仮名交じり書を学ぶ 「吹き抜ける風～」 「青い空は～」 「雨ニモマケズ～」(宮沢賢治) 創作 ※確認小テスト、作品互評会を適宜実施。		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じり書について知る。 ・構成の多様さを知る。 ・用具用材による表現の違いを知る。 ・創作活動を通して、自信の内面を表現する。 		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースIクラス		芸術	音楽Ⅱ	必修選択	2単位	大森久美子
教科書	教育芸術社「MOUSA 2」		副教材	iPadへのデータ配信		
授業のねらい	英語の歌の曲想を理解した上で歌えるようになる。楽器(ギター)のコードを習得し演奏が出来るようになる。日本の歌について知り、歌詞の内容や文化背景を日本語(又は簡単な英語)で説明することで、言語技術の能力をつける。					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱と器楽では多くの実技課題が提示されます。意欲的・主体的に取り組みましょう。 ・器楽では学校の備品の楽器を使用します。大切に扱いましょう。 					
評価方法	授業内での実技テスト(「歌唱」「器楽」)、筆記テスト、提出物、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	歌唱: Pops、日本の歌、Disney songs		<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容を理解し、発音に注意して英語で歌えるようにする ・日本の伝統的な歌を知り、歌えるようにする ・簡単に歌詞の内容や曲の世界観を英語で説明できるようにする 		
		器楽: 三線		<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄伝統楽器三線の習得度、日本音楽を理解し愛着を深める ・和楽器についての仕組みや歴史、奏法、楽曲の理解 		
2 学 期	中間	歌唱: 英語、原語曲、鑑賞曲		<ul style="list-style-type: none"> ・原語や斉唱曲、鑑賞曲で表現力を身につけさせる ・リズム感、協調性を育てる。 		
	期末	創作: リズム 器楽: ブームワッカー 鑑賞: ミュージカル作品		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽と演劇、舞踏、美術など他の芸術との結びつきについて 		
3 学 期	学年末	器楽: ミュージックベル		<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージックベルアンサンブルの習得度 		
		鑑賞: 映画を彩る音楽		<ul style="list-style-type: none"> ・映画音楽に興味を持ち映画と音楽の関わりについて考えさせる 		
		授業内テスト				
3 学 期	学年末	歌唱: 外国の民謡、Pops、合唱曲		<ul style="list-style-type: none"> ・伸び伸びとした良い発声で歌詞の内容を理解し、発音に注意して英語で歌えるようにする。 		
		器楽: コードネームについて		<ul style="list-style-type: none"> ・ギターでコードネームの理解 ・英語の曲で発音に注意し簡単な曲を弾き語りすることが出来たか ・ストローク奏法の習得 		
		授業内テスト				

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(文系)		芸術	音楽Ⅱ	必修選択	2単位	大森久美子、尾又好美
教科書	教育芸術社「MOUSA 2」		副教材	プリント		
授業のねらい	音楽の幅広い活動を通して創造的な表現力・鑑賞能力を伸ばすとともに、世界の文化・芸能を吸収し、平和を愛する心情を養う。					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が好きな生徒、音大・保育関係へ進学希望者は特に履修を勧めます。 ・歌唱と器楽では多くの実技課題が提示されます。意欲的・主体的に取り組みましょう。 ・器楽では学校の備品の楽器を使用します。大切に扱いましょう。 					
評価方法	授業内での実技テスト(「歌唱」「器楽」)、筆記テスト、提出物、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	歌唱:発声、原語曲、鑑賞曲	校歌指導	・発声に気を付け、のびのびと歌うことが出来たか	・原語や斉唱曲、鑑賞曲で表現力を身につけさせる	・校歌指導を通して愛校心を育てる
		器楽:ギター		・コードネームの理解とストローク奏法の習得		
2 学 期	中間	歌唱:発声、原語曲、鑑賞曲	鑑賞:ミュージカル作品	・原語や斉唱曲、鑑賞曲で表現力を身につけさせる	・音楽と演劇、舞踏、美術など他の芸術との結びつきについて	・三線による沖縄民謡の習得度(ていんさぐぬ花、安里屋ユンタ)
	期末	器楽:三線		・リズム感、協調性を育てる		
3 学 期	学年末	器楽:ブームワッカー	ミュージックベル	・リズム感、協調性を育てる	・ミュージックベルアンサンブルの習得度	
		授業内テスト				
3 学 期	学年末	歌唱:外国語の歌、合唱曲	鑑賞:クラシック作品	・外国語の歌で、歌詞の意味や背景にある情景、心情に関心を 持たせ表現させる	・作曲者の生涯、作品の背景等、クラシック作品を通して豊かな 感性を育てる	・ロマン派から近現代までの作曲家、作品を理解する
		授業内テスト				

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(文系)		芸術	美術Ⅱ	選択必修	2単位	海老根捺稀、 菅原英雄
教科書	日本文教出版「高校生の美術2」		副教材等	iPadへのデータ配信		
授業のねらい	感じる事、考えた事、観察によって発見した事を第三者に伝えることを目標とし、同時に制作の喜び、感動を体験してもらいたい。					
学習上の留意点	自然物を主な対象物として、自然の持つダイナミズムや生命力を感じ観察を深め自分らしい表現を模索してゆく。モチーフの観察、参考作品の分析を繰り返し、観察力を身につける。自ら情報を集め、整理し、自分の思いを表現する構成を行う。					
評価方法	実習制作した作品、プリントなどの提出物。授業への取り組みで評価をつける。 (年間を通して作品の完成度では、構成力、工夫、表現力を評価する。)					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	表現とは何か(鑑賞)	線と明暗で表す(表現・鑑賞・絵画)	・美術Ⅰを振り返り、美術Ⅱの学習のイメージを持つ		
		テーマを追求する(鑑賞)		・作家がどのような視点でテーマを追求し、 主題を表そうとしたのかを考える		
2 学 期	中間	風景画水彩模写(絵画)	作家探究(鑑賞)	・人物の特徴や動きなどを捉えて、線の強弱を工夫し表現する		
		テーマを生かしたポスターを作る(デザイン)		・模写を通して、構図や道具の扱いを学ぶ ・伝えたい情報を明確に伝えるための 強く印象に残るポスターを作る		
3 学 期	期末	架空の生物をつくる・描く(絵画)	作家探究(鑑賞)	・既存の生き物や器物などの特徴やイメージを生かし、架空の生物を 空想し、表現方法を工夫して表現する		
		マッチ棒工作(立体)		・素材を理解し、空間の構成を考えて制作をする		
3 学 期	学年末	錯覚による不思議な世界(鑑賞)	作家探究(鑑賞)	・「錯視」によって生まれる不思議なイメージの世界を考える		
		飛び出す世界を表す(絵画)		・表したいイメージを立体的に見える効果を生かして描く		
3 学 期	学年末	目には見えないイメージを 形と色で表す(表現・鑑賞・絵画)	作家探究(鑑賞)	・「錯視」によって生まれる不思議なイメージの世界を考える		
		作品が場を作り出す(鑑賞)		・表したいイメージを立体的に見える効果を生かして描く		
3 学 期	学年末	これからの美術(鑑賞)	作家探究(鑑賞)	・近代彫刻の歴史と発展を理解する		
		これからの美術(鑑賞)		・近代彫刻の歴史と発展を理解する		
3 学 期	学年末	目には見えないイメージを 形と色で表す(表現・鑑賞・絵画)	作家探究(鑑賞)	・抽象表現の多様性を理解し、日常の情景から 自分が感じ取ったイメージを自分らしい形と色で表す		
		作品が場を作り出す(鑑賞)		・生活や社会の中の様々な美術の働きについて考えてみよう		
3 学 期	学年末	これからの美術(鑑賞)	作家探究(鑑賞)	・美術を通して学んだことをこれからの生活の中でどのように 生かすことができるかを考え、1年間の学びとともに振り返る		
		これからの美術(鑑賞)		・美術を通して学んだことをこれからの生活の中でどのように 生かすことができるかを考え、1年間の学びとともに振り返る		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス文系		芸術	書道Ⅱ	選択必修	2単位	小池功一郎
教科書	光村図書「書Ⅱ」		副教材等	特になし		
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・書写から書道への変化に対応し、様々な書体の学習を通して表現の多様性を習得する。 ・中国殷代から清、日本の古典や古筆についての知識と技能を習得する。 ・様々な書のジャンルに触れることで、感性を磨き芸術的な視点を身に付ける。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・古典、古筆の背景知識を理解し、書道史の大きな流れを知るための努力をする。 ・毎時間の課題に熱心に取り組み、技術向上の意識を常に持ち続ける。 ・書道室の使い方を理解し、公共の場としての利用を心掛ける。 					
評価方法	毎時間の課題(作品・ワークシート)、授業内テスト結果、授業態度を総合的に判断し評価する。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	期末	隷書法を学ぶ 「乙瑛碑」「曹全碑」 「居延漢簡」「石門頌」		<ul style="list-style-type: none"> ・隷書について書道史的な位置づけを知る。 ・隷書の特徴を理解し、筆法を習得する。 ・古典による書風の違いを知る。 		
		篆書法を学ぶ 「泰山刻石」 「石鼓文」 「小臣餘犧尊」「甲骨文」		<ul style="list-style-type: none"> ・篆書の基本点画を学ぶ。 ・篆書の基本原理を体現できるように鍛錬を積む。 ・漢字の起源に迫る。 		
2 学 期	中間	草書法を学ぶ 「十七帖」 「書譜」「自叙帖」		<ul style="list-style-type: none"> ・草書の成立過程について学ぶ。 ・字源を理解した上で、簡略化された文字を学ぶ。 ・古典による書風の違いを知る。 		
	期末	仮名書法を学ぶ 「高野切 第一種」 「香紙切」「針切」 成田山全国競書大会作品制作		<ul style="list-style-type: none"> ・古筆の臨書方法を学ぶ。 ・連綿や墨継の技術を学び、表現効果を知る。 ・古筆による書風の違いを学ぶ。 ・成田山全国競書大会に向けて作品制作に取り組む。 		
3 学 期	学年末	漢字仮名交じり書を学ぶ 「双眼鏡は～」 「狼星が～」 「メロスは激怒した～」(太宰治) 創作 ※確認小テスト、作品互評会を適宜実施。		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じり書について知る。 ・構成の多様さを知る。 ・用具用材による表現の違いを知る。 ・創作活動を通して、自信の内面を表現する。 		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		芸術	音楽理論	選択	2単位	尾又好美
教科書	なし		副教材	プリント、五線紙、コールドユープンゲン iPadへのデータ配信		
授業のねらい	リズム、旋律、和声などの音楽の諸要素を聴取し、楽譜を正確に読み取って表現する能力を育てる。「楽典」「聴音」「視唱」によって、音楽性豊かな表現をするための基礎的能力を養う。コードの仕組みや進行の仕方を理解し、ピアノ鍵盤を使って曲を豊かに表現する能力を育てる。					
学習上の留意点	音楽やピアノを演奏する上で、必要な要素を基礎から学習していきます。音楽大学や音楽関係、保育士の進学を希望する生徒は積極的に受講して下さい。					
評価方法	授業時間内に筆記テスト、ピアノの実技テスト等を行い、授業の取り組みを含めて評価する。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	中間	導入 楽譜について、音符と休符 リズム、拍子と指揮		<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み方、書き方を理解し、習得する ・音符や休符の長さ、表現についての理解 ・五線や様々な音部記号の理解 ・様々な拍子とそのリズムが持つ特徴を理解し、身体表現(指揮)を体感する。 		
	期末	ピアノ奏法基礎 コードの理解 長調における主要三和音		<ul style="list-style-type: none"> ・指の使い方、楽譜の読み方について ・長3度と短3度の和音 ・ハ長調、ヘ長調、ト長調の理解 ・簡単な旋律に伴奏をつけ演奏する 		
2 学 期	中間	音程 移調と近親調 和音、コードネーム		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音程についての理解 ・関係調や移調、転調に関する仕組み ・音階的進行、三和音の跳躍を中心とした視唱練習 		
	期末	伴奏実践 セブンスコード 転回形		<ul style="list-style-type: none"> ・メロディー譜に伴奏をつけ、演奏をする ・セブンスコードの理解と作り方について ・転回形とアルペジオ奏法、左手の奏法についての理解 		
3 学 期	学年末	/		/		

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		芸術	表現探究	選択	2単位	海老根捺稀
教科書	なし		副教材	iPadへのデータ配信		
授業のねらい	多様な芸術表現を通じて、創造力や感性を育み、自己表現の方法を探求することで、芸術の深さと自分自身を理解し、豊かな感受性を育むことを目指す。					
学習上の留意点	美術、デザイン系への進学希望者は、授業だけではなく放課後や自宅学習でもデッサンに取り組むようにして下さい。					
評価方法	実習制作した作品、プリントなどの提出物。授業への取り組みで評価をつける。 (年間を通して作品の完成度では、構成力、工夫、表現力を評価する。)					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	鉛筆デッサン基礎画材 静物デッサン(果物) 静物デッサン(幾何学体) 鉛筆デッサン(手とモノ)		・画材の特徴を理解する ・単純なモチーフを使い、画面の構成の仕方を学ぶ ・幾何学体の構造を理解し、陰影と濃淡を意識して描く ・手の構造を理解し、手とモノの関係を構成し描く		
	期末	静物デッサン(複数モチーフ) ポスターの制作 テーマ別アートプロジェクト		・空間を意識し、画面全体の構図を考える ・テーマ別にポスターを作成し、スライドを使って発表する ・絵画やデジタルアート、コラージュを使って表現する		
2 学 期	中間	作家探究 ドローイングの方法 コラボレーションアート		・風景画を描く作家の思想を学び、表現方法を学ぶ ・身体全体で絵を描く方法を学ぶ ・視点や構図などの効果を考え、風景から感じ取ったよさや美しさを絵具などの特性を生かして表現する		
	期末	デザインについて考える マグネットアート アートの歴史を体験する ポートフォリオ作成		・デザインをするときに大切なことは何かを考える ・オリジナルの立体作品をテーマに合わせて作成する ・歴史的な芸術運動を紹介し、実際にそのスタイルを模倣してみる ・1年間の学びを振り返りながら、ポートフォリオを作成する		
3 学 期	学年末					

2025年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		芸術	硬筆レッスン	選択	2単位	久次宏太郎
教科書	特になし		副教材等	教育図書「ペン習字の基礎」		
授業のねらい	基本的な文字の形を反復練習し、自分の日常書く文字を解りやすく正確に書けるようにする。					
学習上の留意点	小論文や志望理由書作成時に読みやすくわかりやすい文字が書けるようになることを目指す。					
評価方法	毎時間の課題(作品・ワークシート)、授業内テスト結果、授業態度を総合的に判断し評価する。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考查	単元		学習目標		
1 学 期	中間	平仮名の練習		平仮名の起源を知り、正しい書き方を習得する。		
		片仮名の練習		片仮名の起源を理解し、正しい書き方を習得する。		
	期末	漢字の練習		漢字の書体の変遷や筆順について学ぶ。 字形の捉え方を学ぶ。		
2 学 期	中間	実用書の練習①		志望理由書や履歴書の書き高を学び、日常生活において文字を書く場面を想定して練習を行う。		
	期末	実用書の練習②		便箋やあて名書きの法則と練習を行う。		
3 学 期	学年末					